

# e音IPフォンが実現する音の「新世界」 沖電気の次世代音声ソリューション

VoIP/IP電話で最先端の製品とソリューション群を提供してきた沖電気工業。同社が次なる一手として満を持して発表したのが「e音IPフォン」だ。かつて体験したことのない「高品質な音声」を実現するe音IPフォンが、IP時代の新しいコミュニケーションを創出する。

VoIP/IP電話の活用シーンは企業ネットワークだけに留まらず、今や新しい社会インフラへと発展を遂げつつある。消費者向けのIP電話サービスが急速に加入者を増加させているのはその表れといえよう。

こうしたVoIP/IP電話による「情報と通信の融合市場」の確立に向け、業界を先導してきたのが沖電気工業だ。

97年のVoIP製品の発売開始以来、同社は先進的なVoIP/IP電話製品、ソリューション群の展開に加え、IP電話普及推進センタの設立と運営等、情報・通信の融合市場を切り拓いてきた。

このほど、沖電気工業は本格的なVoIP/IP電話の活用期となる第2ステージを迎えるため、新しいソリューションを発表した。ブロードバンド時代

のコミュニケーションを実現する「e音IPフォン」だ。

沖電気工業・IPソリューションカンパニーIPシステム企画開発本部の千村保文本部長は、「情報通信融合市場の基盤の確立を第1幕とするならば、市場はすでにブロードバンド化の普及に伴うVoIP/IP電話の利活用の加速という第2幕へと移ろうとしています」と語る。その第2幕を開くために必要となるのが「従来の電話を超える良い音の実現」だという。

従来、IP電話は既存の電話と比較して、アプリケーションとの連携による付加価値サービスが実現できる反面、音質に対する不満がユーザーから語られてきた。しかし沖電気工業はこうした評価に常に疑問を感じていたと

いう。千村本部長は、「本来、IP電話はIP技術をフル活用することで、従来の電話以上の音質を実現できる可能性を持っています。e音IPフォンはこうした市場の声に対する私どもからの回答であり、VoIP/IP電話を第2ステージへと導くために最も有効なソリューションなのです」と強調する。

## 既存電話の限界を超えた高音質

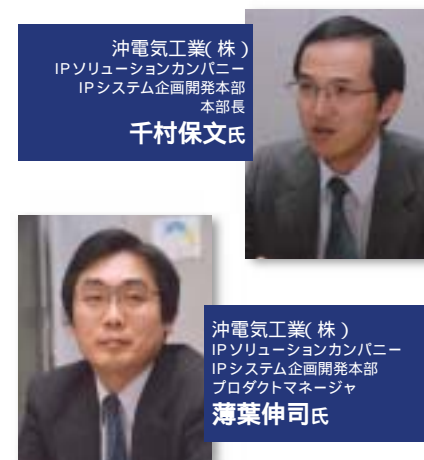
長年、電話はコミュニケーションの手段として広く一般に使われ、慣れ親しまれてきた。しかし、その音質について「電話を通した会話は意味は理解できるが、人の声が実際のものとは異なり違和感を覚える」という意見も少なくなかった。

本来、人間の音声周波数は約70～7000Hzとさまざまな高さの音の成分を含んでいる。

一方、従来のアナログネットワークベースの電話は、300～3400Hz(3.4kHz)という限られた帯域幅で設計されており、できるだけ多くの通話を実現するために音声成分の半分程度がカットされている。身近な例をあげると、鈴虫の鳴き声は4000Hz以上とい

## 沖電気工業株式会社

- PART1 「IP電話普及推進センタ」紹介
- PART2 音声品質評価ソリューション
- PART3 コンサルティングソリューション
- PART4 教育ソリューション
- PART5 機器実証ソリューション
- PART6 オープンソリューション
- PART7 ネットワーク構築事例1
- PART8 ネットワーク構築事例2
- PART9 e音ソリューション



沖電気工業(株)  
IPソリューションカンパニー  
IPシステム企画開発本部  
本部長  
千村保文氏



沖電気工業(株)  
IPソリューションカンパニー  
IPシステム企画開発本部  
プロダクトマネージャ  
薄葉伸司氏

う高い周波数のため、電話では聞こえない。

今回沖電気工業が開発した「e音IPフォン」は、従来の通信帯域の倍となる50～7000Hzという幅広い周波数帯域を実現している。

低周波数帯域では奥行きのある音、高周波数帯域ではクリアな音を伝送できるため、従来の固定電話の音質を遥かに超えた臨場感のある高品質な通話を可能としている。

これにより、従来の電話では提供できなかったさまざまな効果もたらされる。

その1つが聞き取りやすい音声による「伝達内容の理解度向上」だ。

会話における誤認防止に有効となるだけでなく、外国語での通話においても発音が聞き取りやすくなり、理解の精度が向上される。

もう1つの効果が、従来の電話では再現できなかった「感性」を的確に伝えられるというものだ。

沖電気工業・IPソリューションカンパニーIPシステム企画開発本部の薄

葉伸司プロダクトマネージャは、「臨場感のある通話を実現されることで、単なる用件の伝達から、従来再現できなかった雰囲気や誠意、丁寧さなどのさまざまな感情を伝えられるので、より豊かなコミュニケーションが実現されます」と語る。

これらの効果に加えて、より自然音に近い音声を再現するため、長時間の通話での疲労の軽減にも有用となる。

## VoIP/IP電話の新技术を結集

e音IPフォンは、従来にない高品質な音声通話を実現するために、広帯域音声符号化方式「G.722」の採用をはじめ、さまざまな新技术が導入されている。

薄葉プロダクトマネージャは、「コミュニケーションにおける“良い音”を実現するため、IPネットワーク上でいかに品質を確保しながら安定した通信を実現できるかということに焦点を当てて製品開発を行いました」と説明する。

ここでは、従来培ってきた沖電気工業のVoIP技術に加え、広帯域信号に対応したパケットロス補償技術、エコーキャンセラ技術等を新たに搭載している。

さらに「音声の連続再生を途切れさせない技術」を進展させ、さまざまなネットワーク環境においても伝送品質を確保できる機能を搭載した。

e音IPフォンは、IP-PBX製品「DISCOVERY01」用の新端末として提供される。DISCOVERY01をすでに社内

で利用しているユーザーはe音IPフォンの導入とともに、ソフトウェアアップグレードによって利用できるようになる。

沖電気工業では、さらに製品レンジを広げ、IPによるTV会議、電話会議などさまざまなサービスの実用化と市場の創出を実現していくという。ここでは多様な付加価値アプリケーションを創出するため、さまざまなベンダーとパートナーシップも積極的に進めていく構えだ。

千村本部長は、「e音IPフォンは、従来のコミュニケーションの概念を変えていく可能性を持った製品です。今後、さまざまなソリューションを実現するパートナー企業と提携し、“より豊かなコミュニケーション”の世界を実現していきます」と語る。

また、薄葉プロダクトマネージャも、「e音IPフォンが実現する新しいコミュニケーションをまずは日本全体に広げていきたい。さらにこうした日本発のスタンダードを世界中に展開していきたいと考えています」と意欲を見せている。

沖電気工業は97年のVoIP製品の販売開始から一貫して「より良好な音声品質の実現」を追求し続けてきた。e音IPフォンはそうした同社の音質への“こだわり”が具現化された製品といえよう。

VoIP/IP電話もいよいよ次のステージへと進化する時を迎えようとしている。その幕を開くのは、沖電気工業のe音IPフォンである事は間違いのない。

図 e音IPフォンが実現する広帯域音声

